

「現地メディア向けプレスツアーを行いました」

7月25日から27日、当地JICAとの共催で、現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞・テレビ・ラジオ12社16名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、ウガンダの政府関係者、知識層及びウガンダ国民への情報発信を強化するためのものです。

プレス一行は、ウガンダ西部及び西南部を訪れ、ウガンダの地方部において、日本が実施している様々な開発援助の現場を視察しました。

【1日目の様子】

1日目は、「カバロレ県カヒンジュ中高等学校における女子寮建設計画」を視察しました。カヒンジュ中高等学校では、多くの女子生徒が長距離通学しており、このことが女子生徒の学業不振や中途退学の原因となっていました。

そこで、同校を運営するウガンダ教会ルウェンゾリ教区は、女子生徒のための寮を建設するために、大使館に対して、「草の根・人間の安全保障無償資金協力（草の根無償）」を使った日本政府に支援を要請しました。草の根無償は、草の根レベルの住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するものです。

日本政府からの93,469米ドルの資金供与により、新しい女子寮が今年7月に完成しました。プレスツアーでは、学校を運営するルウェンゾリ教区の司教からも日本に対する感謝の言葉が述べられました。



「新たに建設された女子寮での取材」

【2日目の様子】

2日目は、午前中、日本NGO連携無償案件（N連）である「ウガンダ西部における災害弱者のためのコミュニティ災害・気候変動対応能力向上事業」を実施する日本のNGO、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動を視察しました。

カセセ県は、干ばつや洪水が多く、災害の被害を受けやすいことから、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、地域の住民や生徒に対し、災害マネジメントのための啓発活動を実施しています。また、この地に灌漑用水路を敷設し、地域の農家の生計向上のために活動しています。

日本政府は、N連を通じて、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンをはじめとする日本の国際協力NGOが、開発途上国・地域で実施する経済社会開発事業に必要な資金を供与しています。



「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの協力で建設された灌漑用水路を前に関係者へのインタビュー」

2日目の午後には、草の根無償案件「ルビリジ県における安全な水へのアクセス改善計画」を視察しました。ルビリジ県ルウェル準郡のムシユンバ地区では、約18,000名の住民が危険な水汲み労働に従事しており、湖への滑落事故も発生していました。

そのため、日本政府は、ルウェル準郡政府からの要請により、草の根無償を通じて、この地に安全な水を安定的に供給するための水道施設を供与しました。この水道施設が完成してから、滑落事故はなくなったそうです。



「プロジェクト関係者取材するプレス」

更にプレス一行は、JICA草の根事業パートナー型案件「ムバララ県安全な牛乳生産支援プロジェクト」の現場を訪問しました。この事業は、ウガンダの酪農地帯であるムバララ県において、牛乳の質と量を向上させるために、プロジェクト協力酪農家30戸を対象に、ムバララ県獣医事務所と日本の酪農学園大学からの専門家が協力して巡回検診・技術指導を行うものです。このプロジェクトの前に見学した3案件は、大使館が支援するものですが、本件はJICAが支援を行うものであり、開発途上国への支援において既に豊富な経験を有する団体に資金を供与し、開発途上国の抱える課題解決に寄与することを目的にしています。



「乳牛の飼育環境について取材するプレス」

【3日目の様子】

プレスツアー3日目には、ウガンダ西部及び西南部地域出身の大臣、政治家、地元有力者を招待して、ムバララ県のホテルを会場とし、日本の開発協力に関する意見交換会を開催しました。この意見交換会には、亀田大使、ビャバガンビ・カラモジャ担当大臣、ルワミラマ防衛・退役軍人担当国務大臣をはじめ、総勢約100名が出席しました。日本が支援するプロジェクトの関係者及び青年海外協力隊員からそれぞれの活動についてのプレゼンをしていただき、参加者からは、「日本がウガンダの発展のために幅広い貢献をしていることがわかった。」「日本国の皆さんに感謝する。」といった意見が聞かれました。また、協力隊員からの理数科教育に関するプレゼンには多くの関心が集まりました。



「協力隊員に声をかけるルワミラマ国務大臣」

更に、カンパラへの帰路、バングラデシュを本拠とするNGO、BRACウガンダによる母子保健及び乳幼児の栄養改善の活動現場を訪問しました。BRACウガンダは、世銀・日本社会開発基金を通じて日本政府が拠出した資金によってこの活動をしています。BRACウガンダは、小規模農家の栄養改善や収入向上、母子保健の改善、マイクロ・ファイナンスなど、バングラデシュでの経験を活かして、ウガンダの地方部の生計向上に貢献しています。

プレスツアーの後、各紙・テレビ・ラジオでは我が国の開発協力の取組が次々と報道されました。多くの市民が目にしたたり聞いたりする新聞各紙やテレビ、ラジオで日本の開発協力事業が取り上げられることで、ウガンダ国民の我が国開発協力事業への理解もより一層深まったのではないかと思います。

関連リンク（外部サイト）

プレスツアー後にリリースされたニュー・ビジョン紙のウェブ記事（英語） Japan builds sh300m girls' dormitory in Kahinju

（邦訳：「日本はカヒンジュに300百万シリングの女子寮を建設」）

https://www.newvision.co.ug/new_vision/news/1482140/japan-builds-sh300m-girls-dormitory-kahinju-ss

ナイル・ポスト紙のウェブ記事（英語） Residents decry water scarcity

（邦訳：「住民は水不足を訴え」）

<http://nilepost.co.ug/2018/07/31/residents-decry-water-scarcity/>

キャピタルFMのウェブ記事（英語） Japan's decades of assistance to Uganda changing rural lives

（邦訳：「ウガンダの地方生活を変えるための日本による数十年の支援」）

<http://capitalradio.co.ug/japans-decades-pf-assistance-uganda-changing-rural-lives/>

ムバララ・サンのウェブ記事（英語） Japan Ambassador to Uganda, H.E Kameda Assures His Country's Continued Support to Uganda

（邦訳：「亀田大使は日本が引き続きウガンダを支援することを保証」）

<http://mbararasun.com/index.php/about-us/>